

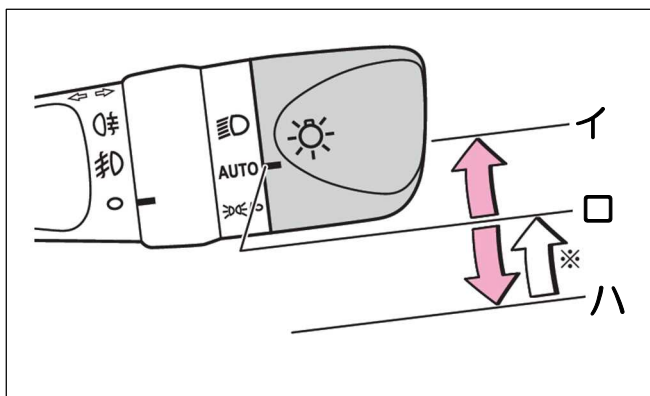
1. 各端子間の導通点検は、点検用端子のみで行なうこと。
2. 点検時に、サーキット・テストのブザー機能を使用しないこと。
3. 点検開始前に、どの測定個所の点検を行うか採点員に申告し、了解を得てから開始すること。  
（申告例：車幅灯を点検します 等）
4. スイッチ本体から点検用ハーネス（コネクタ）を取り外さないこと。
5. ライト・スイッチの操作方法は以下の通りである。

イ すれ違い用前照灯

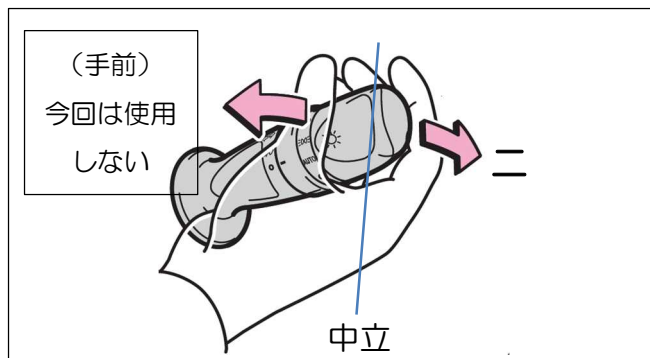
ロ AUTO

ハ 車幅灯

※手を離すと、自動的に AUTO の位置へ戻ります。



ニ 走行用前照灯



6. ライト・スイッチの各操作位置による端子間導通は、下表のとおりである。なお、端子番号は点検用端子の番号に対応している。

※ ○ — ○ のみ導通がある

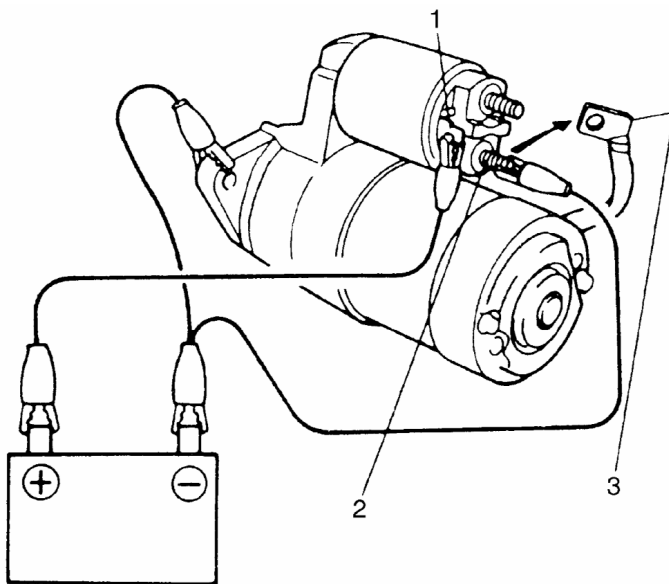
端子番号	①	②	③	④	⑩
操作位置					
AUTO			○ — ○		○ — ○
車幅灯	○ — ○				○ — ○
すれ違い用前照灯		○ — ○	○ — ○		○ — ○
走行用前照灯				○ — ○	○ — ○

注意：

- (1) 問 1 から問 2, 問 3 の順番に行うこと。
- (2) プルインテスト, ホールディングテストは, 3~5 秒以内で行うこと。5 秒以上行くとコイルが焼損する恐れがある。
- (3) 結線後は, 採点員に必ず申告すること。バッテリーへの接続は絶対に行わない。

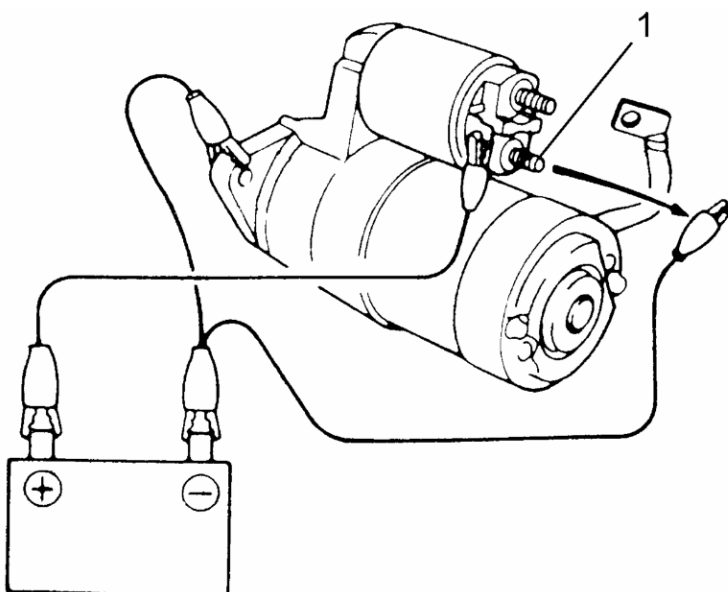
1. プルインテスト (プランジャの吸引テスト) は以下のように実施する。

- 1) ブラシアッシのリード線 (3) を M 端子 (2) から外す。
- 2) バッテリマイナス端子と M 端子及びスタータ本体をリード線で接続する。
- 3) バッテリプラス端子と S 端子 (1) を接続したときにピニオンが飛び出すことを確認する。



2. ホールディングテスト (プランジャの保持テスト) は以下のように実施する。

- 1) 1. のプルインテストの状態では, M 端子 (1) からマイナス配線を外したとき, ピニオンが戻らないか点検する。

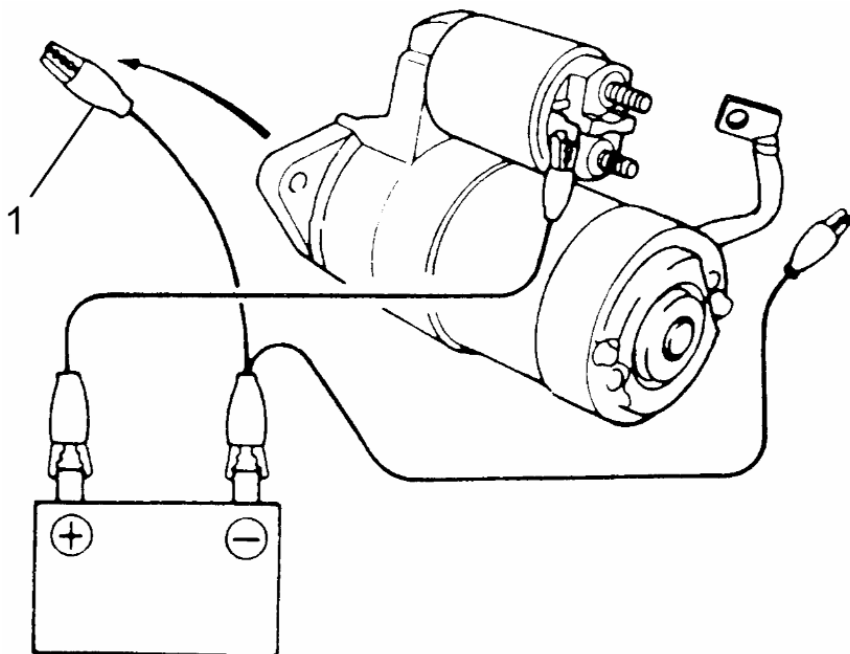


(裏面へ続く)

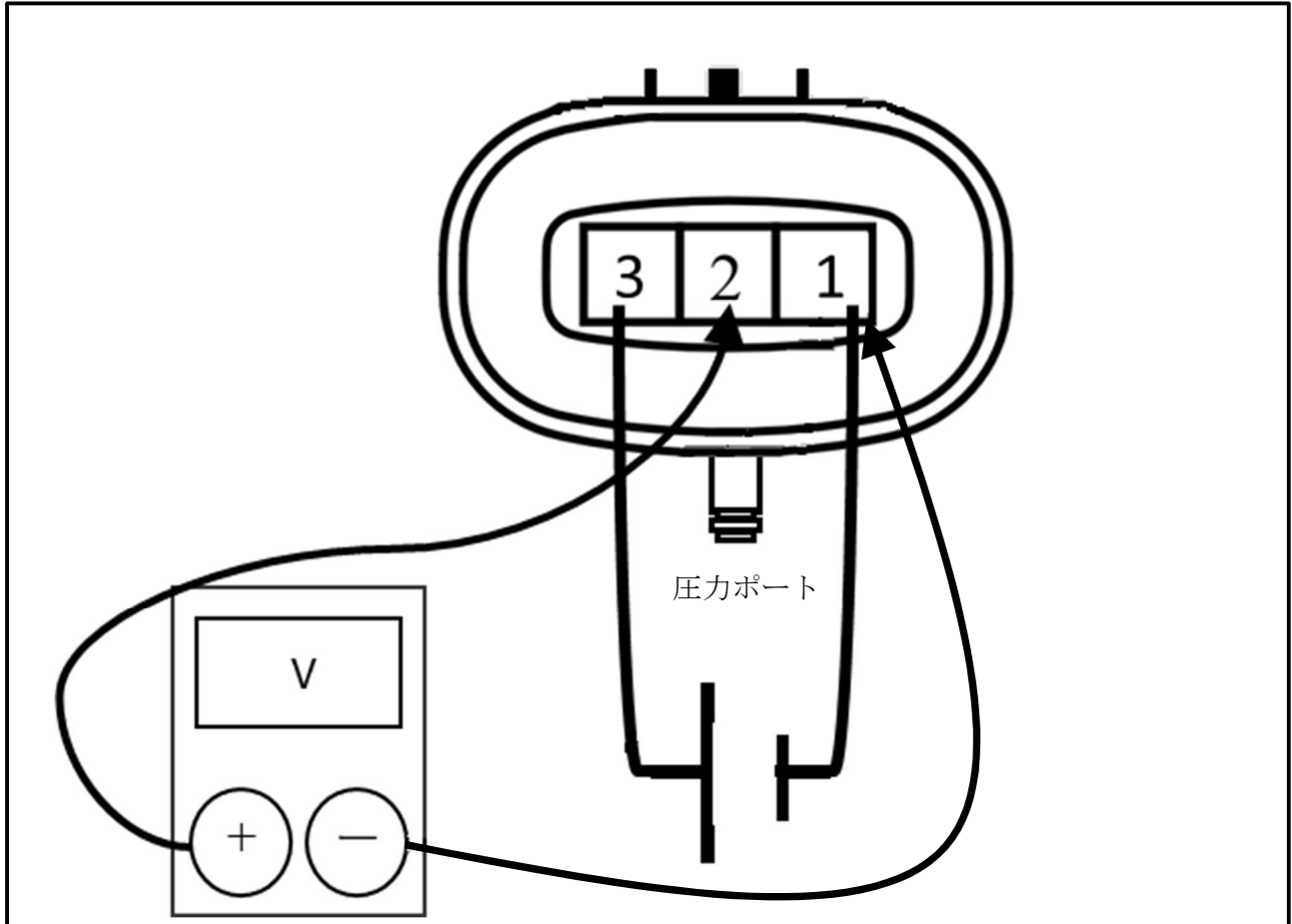
## 【問題2】 留意事項（2／2）

3. プランジャ戻りテストは以下のように実施する。

- 1) 1.のプルインテスト後のホールディングテストの状態では、スタータ本体からマイナス配線(1)を外したとき、ピニオンが元の位置に戻るか点検する。



1. 問1は、ハンディーバキュームポンプを接続しない状態で測定すること。
2. 問2及び問3は、規定圧力を掛けた後、採点員に表示部を見せて確認を受けること。
3. バキューム・センサの点検は下記要領で実施する。
  - ①100V-5V 安定化電源を使用して、端子3に100V-5V 安定化電源のプラス端子を、端子1に100V-5V 安定化電源のマイナス端子を接続し、端子2にデジタル式サーキット・テスタのプラス側を、端子1にデジタル式サーキット・テスタのマイナス側を接続する。センサー側を先に接続したのち、電源につなぐこと。接続が完了したら採点員に確認を受けたのち、100V-5V 安定化電源の電源を入れること。



②バキューム・センサーの圧力ポートにハンディーバキュームポンプを接続する。

③下表の圧力のときの電圧を点検する。

規定圧力	基準値
0 kPa（大気圧）	$V \pm 0.2V$
-30 kPa	$V \pm 0.2V$
-70 kPa	$V \pm 0.2V$

4. バキューム・センサーの各端子間の電圧測定には、点検ハーネスを使用して点検すること。